

「時間が資源である」としても、
それは概念譬喩の結果だとは限らない

黒田 航 井佐原 均

(独) 情報通信研究機構 けいはんな情報通信融合研究センター

関西言語学会第30回記念大会

関西大学

6/5/2005

おわび

—— [配付を予定してたハンドアウト (カラー印刷) を持参するのを
忘れました。 申しわけありません ...

—— [同一のファイルが私のホームページから入手可能です

—— <http://cls1.hi.h.kyoto-u.ac.jp/~kkuroda/papers/time-is-a-resource-cls30-handout.pdf>

—— [他の関連の資料はほとんどカラー PDF です

発表の概要

— [Lakoff-Johnson 1980 以来の概念譬喩理論 Conceptual Metaphor Theory (CMT) の問題点の指摘, 具体的には

— [Lakoff and Johnson (1999) で論じられている [[TIME IS MONEY]] は CM かも知れないが

— [[[TIME IS A RESOURCE]] が CM であることを立証する証拠は十分でなく, これはむしろ有害な過剰般化である

— [この種の過剰般化を (TDO などに訴えずに) 効果的に避けない限り CMT は妥当な説明理論ではない

— [内容は『日本語学』の論文の姉妹編

まずは CMT の基本をおさらい

- [概念譬喩 Conceptual Metaphors (CMs) は元領域 (Source domain) の概念(構造)から先領域 (Target domain) の概念(構造)への写像 (mapping) によって成立する
- [[[TIME IS MONEY]] なら [[TIME]] が先領域で [[MONEY]] が元領域
- [[[TIME IS A RESOURCE]] なら [[TIME]] が先領域で [[RESOURCE]] が元領域

提唱20年後のCMTの“今日的”評価

— [CMT は(言語の)意味現象の記述的一般化としては非常に興味深く、認知の仕組みに関する多くの洞察を含む

— [その一方、それは意味現象の説明理論としては(まだまだ)未熟

— [理由: 記述的一般化としての(文法)規則が文法の説明になっていないように、記述的一般化としての譬喩写像(規則)は譬喩の説明にはなっていない

— 譬喩写像が事実上、“概念構造に働く変形規則”と変わらないことに注意

— 「Lakoff は概念写像が“規則”だなんて言っていないよ。だから、概念写像は規則じゃない」とか言うのは、幼稚な反論

注意: 概念譬喩は記述的一般化

— [次の点には注意が必要

— [I. 概念譬喩は記述的一般化で、それ以上でも以下でもない

— [II. 文法現象の記述的一般化としての文法規則は、文法現象を記述するだけで、説明することはない (生成文法の進展から得られる“古典的”教訓の一つ)

— [これと同様に、意味現象の記述的一般化としての譬喩写像(規則) は、意味現象を記述するだけで、説明することはない

— [III. 記述的一般化にとって、過剰般化は致命的

多くの認知言語学者の誤解

— 「何でも説明できる理論」はスバラシイ理論であるどころか、無価値な理論

— それは“科学的な意味での説明”を提供しないから

— “科学的説明”の大前提:

— 余計なことを説明しない“貧弱”な(過剰般化をしない)理論の方が何でも説明するほど“強力”な理論より好ましい

— “弱い説明”の方が常に“強い説明”より好ましい

— ただし“非科学的な説明”でいいなら、話は別

再び [[Time Is A Resource]] かどうか

— [Lakoff & Johnson 1999 の定義:

— The “Time is A Resource” Metaphor is a mapping that applies to a conceptual schema that characterizes what a resource is. (p. 161)

— [Lakoff & Johnson の説明例 (一部) (1999: 161-69)

— 1. You **have** some time **left**; 2. You’ve **used up** all your time; 3. I’ve **got plenty of time** to do that; 4. I don’t **have enough** time to do that; 5. That **took** three hours; 6. He **wasted** an hour of my time; 7. This shortcut will **save** you time; 8. It **isn’t worth** two weeks to do that; 9. Time **ran out**; 10. He **uses** his time efficiently; 11. I **need** more time; 12. I can’t **spare** time for that; 13. You’ve **given a lot of** time of your time; 14. I hope I **haven’t too much of** your time; 15. **Thank you for** your time.

メタファーと非メタファーの区別

— [“Time Is A Resource” Metaphor と言われているが、これは単なるスキーマの具現化 (instantiation) ではないのか？

— [とすれば、Lakoff & Johnson (1999) が “Time Is A Resource” Metaphor の名の下にやっていることは、実は

— スキーマの具現化をメタファー写像として説明すること

— [である

— [これは定義のすり替えで、空虚で内容がない過剰般化

— [鍋島 (2002) も [[Generic Is Specific]] に対し同様の批判

譬喩の定義 ≠ 譬喩の効果

— [CMT では譬喩と非譬喩の区別が理論(的利害)から独立した述べられていない

— [注意: (A), (B) は別のこと

— (A) メタファーを(異なる概念領域間の写像だと)定義すること

— (B) その定義がどの例に当てはまるのかを言えること

— [CMT は (A) のみを与え (B) のための判定基準/操作手順を与えない

— [「どうやって概念領域が異なっていることがわかるのか」を説明しないため、これでは (A) は反証不可能

譬喩(効果)の認定基準の不在

—— [要するに CMT では(概念)比喩の認定基準が自家撞着的

—— [なぜなら,

—— 概念構造が領域をなしているための (概念譬喩写像の成立に暗黙に仮定されている) 条件が非明示的

—— (概念)比喩を定義する先, 元(概念)領域の規定が非明示的

—— [過剰般化を止めるものは, ただただ「研究者の良心」のみ

—— [このため CMT は最低限の記述的妥当性をもたず, (科学的な意味)で妥当な説明理論ではない

[[資源 (RESOURCE)]] って何だ?

—— [結局のところ、問題は

—— [[x IS A RESOURCE]] という概念化には (A) 比喩的な場合と (B) 非比喩的な場合とがあるが、これらの区別をどう与えるか、

—— つきつめると (B) で問題となる [[RESOURCE]] とは何だ

—— [ということを決める規定が (A) から独立に存在していなければ、CMT の「説明」は自己成就的で反証不能

—— [ 資源性を計測する手法の確立が不可欠

調査した名詞群 (37個)

— [お金, 資金, 三万円, 金(かね), 財産, 資源, 森林, 野生動物, 電気, 石油, 水道, 交通, 食べ物, 飲み物, 時間, 三日, 交際, 交友関係, 労力, 努力, 労働, 忍耐, 手間, 暇, 手間暇, 情熱, 希望, 愛情, チャンス, 能力, 資格, 人気, ムダ, 人材, 友人, 子供, 十二人

— [資源性をコードする以下の意味環境とこれらの名詞群の共起のよさを数値化し, それに基づいて資源性を計量

資源性調査環境 (29個)

— [以下の $F(x, y, z)$ として変項 x を前掲の資源性を調査する名詞で指定の下で, 他の変項 y, z の補完の容易さを判定してもらう課題

— [y が x (—,代,費)を{おしむ, 儉約する, 節約する}

— [y が (z のための) x を失う

— [y が z に x を{かける, 費やす, 投じる, 投資する, 使う, 使いすぎる}

— [y が x を{消費する, 守る, 保つ, 残しておく, 維持する, 保存する}

— [z のための x が{枯れる, なくなる, 残り少ない, 失われる, 切れる, 不足する, 枯渇する}

$F(x, y, z)$ の評定基準

— [y, z の補完に苦勞しない場合 2点; 簡単ではないが, 補完が可能な場合 1点; 可能でない場合 0点とし, 8人の評定結果の平均を評価. 例えば以下のようなパターンが得られる:

— [y が {資源; 資金; 石油; お金; 財産; 時間; ?資格; **ムダ} を守る

— [y が {資源, ?資金, 石油, ?*お金, 財産, *時間, *資格, **ムダ} を保存する

— [y が {??資源, 資金, 石油, お金, ??財産, ?時間, **資格, *ムダ} を儉約する

名詞の[資源]性の調査結果 1

n=8	資源	資金	石油	お金	財産	時間	金	食べ物	森林	人材	飲み物	三万円	電気	能力	情熱	チャンス	労力
{節約する,消費する,維持する,残り少ない,なくなる,枯渇する}の平均	1.85	1.8	1.64	1.64	1.6	1.52	1.51	1.29	1.28	1.28	1.23	1.21	1.11	1.04	1.03	1	0.93
Yが__を守る	1.88	1.63	1.5	1.88	2	1.75	1.63	1.75	2	1.25	1.63	1.5	0.75	0.63	0.5	0.75	0.13
Yが__を保存する	1.63	1.13	1.38	1	1.25	0.25	0.25	1.75	1.88	0.25	1.75	0.63	0.25	0.13	0.25	0	0.13
Yが__を残しておく	1.88	2	1.75	2	2	1.88	2	2	2	1.63	2	2	0.63	0.63	0.63	1.38	1.25
Yが__を保つ	1.5	1.25	0.88	0.63	1.5	1	0.63	0.63	1.25	1	0.38	0.75	0.75	1.13	1.75	0.38	0.75
Yが__を節約する	1.75	1.75	1.63	2	1.13	2	2	1.38	0.63	0.63	1.25	1.88	1.88	0.25	0.13	0.25	1.75
Yが__を消費する	2	1.75	2	1.75	1.38	1.75	1.5	1.13	0.38	0.75	1	1.5	2	0.63	0.25	0.63	1.38
Yが__を儉約する	1.25	1.5	1.5	2	0.38	1.13	1.75	0.38	0	0.13	0.25	1.5	1.13	0.25	0.13	0	0.5
Yが__をおしむ	1.5	1.63	1.38	2	1.25	2	2	1.63	0.75	1.25	1.43	1.63	1	1.38	1	0.88	2
Yが__を維持する	1.75	2	1	1	1.75	0.63	0.88	0.38	1.63	0.88	0.25	0.88	0.75	1.75	2	1.13	0.63
Yが(Zのための)__を失う	1.75	2	1.38	2	2	2	2	1.5	1.25	2	1.5	1.88	0.75	1.75	2	2	0.88
Yが(Zに)__を投じる	1.13	2	0.88	1.75	1.75	1.38	1.75	0.13	0.13	1.5	0.13	2	0.5	0.5	1.13	0.5	1.63
Yが(Zに)__を投資する	0.63	1.38	1	1.75	1.75	1.13	1.75	0.38	0	1.5	0.25	1.75	0.13	0.25	0.25	0.38	0.63
Yが(Zに)__を使う	1.88	1.5	1.63	2	2	2	1.88	0.88	0.88	1.38	0.88	2	1.5	1.63	0.25	1	1.75
Yが(Zに)__を使いすぎる	1.75	1.88	1.88	2	1.88	2	1.75	0.38	0.63	1.25	0.13	0.25	1.88	1.25	0.5	0.63	1.88
Yが(Zに)__を費やす	1.5	1.5	1.25	1.88	2	2	2	0.63	0.13	0.38	0.5	2	0.88	0.88	2	0.38	1.5
Yが(Zに)__をかける	0.5	0.75	0.38	2	0.88	2	2	0.13	0	0.63	0.13	1.75	0.25	0.38	1.88	1.13	1.75
(Zのための)__が不足する	1.88	2	1.75	2	0.63	2	1.88	2	1.13	1.88	2	1	1.63	1.13	1.88	0.63	1.25
(Zのための)__が残り少ない	2	2	1.75	1.88	1.75	2	2	1.75	1.5	1.38	1.75	0.38	1.5	0.25	0.38	1.63	0.63
(Zのための)__がなくなる	2	2	1.75	2	2	2	2	1.88	1.63	1.5	1.75	2	1.13	1.75	2	2	1
(Zのための)__が枯渇する	2	2	2	0.75	1.63	0.5	0.75	0.75	0.5	1.5	0.63	0.38	0.63	1.13	0.88	0.63	0.25
(Zのための)__が切れる	1.5	1.88	1.63	1.25	0.5	1.25	1.25	1.13	0	0.88	1.25	0.63	1.38	0	1.13	0.13	0.63
(Zのための)__が枯れる	1.75	1.38	1.75	0.5	0.75	0	0.25	0.38	1.5	1.13	0.5	0	0.38	1.13	1.88	0.38	0.13
(Zのための)__が失われる	1.88	2	1.5	1.88	1.88	2	1.88	1.5	1.75	1.88	1.5	1.88	1	1.63	2	2	0.88

名詞の[資源]性の調査結果 2

愛情	人気	資格	友人	交友関係	野生動物	水道	希望	子供	暇	忍耐	三日	ムダ	努力	十二人	労働	交通	手間	交際	手間暇	AVE
0.88	0.81	0.74	0.74	0.72	0.68	0.67	0.65	0.56	0.53	0.52	0.48	0.39	0.38	0.37	0.3	0.28	0.25	0.22	0.2	0.41
0.63	1.63	1	1.88	1.63	2	0.63	1.88	2	0.25	0.5	0.38	0	0.25	1.13	0.25	0.38	0.25	0.38	0	0.63
0.13	0	0.13	0.13	0.13	1.25	0.13	0.88	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.52
0.5	0.25	0.88	0.88	0.75	1	0.25	0.38	0.5	1.13	0	0.75	1	0	0.5	0.13	0.13	0	0.38	0	0.64
1.75	2	0.88	0.13	1.75	0.38	0.63	0.25	0.13	0.38	1.38	0	0	0.88	0.38	0	0.38	0	0.13	0	0.47
0.38	0	0	0	0	0.13	1.13	1.88	0.13	0.25	0.13	0.25	1.25	0.25	0.13	0.75	0	0.63	0.63	0.13	0.67
0.25	0.25	0.13	0.13	0.13	0.13	0.5	1	0.13	0.13	0.25	1	0	0.38	0.5	0.13	0	0	0	0.25	0.6
0.13	0	0	0	0	0	0.5	0.25	0	0	0	0.13	0.25	0.25	0	0.25	0	0.13	0	0.13	0.47
0.88	0.75	0.13	1	0.38	0.75	0.25	0.88	0.63	0.88	1.13	0.5	1	1.88	0.25	1.13	0	2	0	1.5	0.49
1.25	1.75	1.63	0.25	1.63	0.75	0.75	0.13	0.13	0.25	1.38	0.13	0	1	0.38	0.25	0.5	1	0	0	0.51
1.75	1.63	2	1.75	1.63	1	0.5	0	1	1.13	1.13	0.75	0	0.63	0.88	0.38	0.63	0.38	0	0.13	0.58
0.75	0.13	0.13	0.13	0.13	0	0.13	0.13	0.38	0.13	0	1	0	0.5	1.13	0.13	0	0.13	0	0.38	0.59
0.38	0.13	0.25	0.38	0.25	0	0	0.13	0.38	0.13	0	0.25	0	0.13	0.75	0.13	0	0	0.25	0.25	0.47
0.38	0.5	1	1.25	0.75	0.63	1.25	0	1.38	0.75	0.38	1.5	0.38	0	1.25	0.25	0.5	0.38	0	0.63	0.56
0.25	0.25	0.38	0.88	0.38	0.25	1.38	1.88	1	0.38	0.25	0	0.13	0	0.13	0.25	0.25	0	0.25	0.63	0.66
0.5	0.13	0.13	0.13	0.13	0	0	1	0.25	0.25	0.63	1.5	0.13	1.38	0.63	0.25	0	0.25	1.25	1.25	0.62
1.5	0.13	0.5	0	0	0	0	0.25	0.25	0.25	0.13	1.75	0.25	0.25	0.25	0	0	1.88	0.13	2	0.63
1.63	1.13	0.25	0.88	0.13	0.25	0.5	0	0.75	0.38	1.38	0.38	0.25	1.63	0.13	0.63	0.25	0.25	0	0.25	0.64
0.5	0.13	0	0.75	0.13	1.38	0.13	0	0.38	0.63	0	0.13	0.25	0	0.13	0.38	0.13	0.13	0.38	0	0.7
1.75	1.75	2	0.88	1.38	0.25	0.63	0	0.38	1.88	1.13	0.88	1.88	0.63	0.13	0.63	0.75	0.63	0.13	0.88	0.6
0.88	0.75	0	0.25	0.38	0	0.75	1	0.13	0	0.13	0	0	0.13	0	0	0	0.13	0.63	0	0.46
0.88	0.5	1	0.13	0.75	0	0.25	1.63	0	0.13	1.13	0.13	0	0.38	0	0	0.25	0	0.13	0	0.52
1.38	0.63	0	0	0.38	0	1	0	0	0.13	0	0	0	0.13	0	0.13	0.13	0	0.13	0	0.49
1.63	1.5	1.75	1.25	1.38	1.25	0.5	0.75	0.5	0.75	1.13	1	0.75	0.75	0.25	0.38	0.63	0	0.38	0.13	0.52

[資源]性調査の基準と結果

— [$F(x, y, z)$ で $x = [\text{資源}]$ のときの評定値が1.75以上の環境 (15個) を資源性を積極的にコードする環境と見なした結果:

— [Group 1 (7個): 資源 (1.85), 資金 (1.8), 石油 (1.64), お金 (1.64), 財産 (1.60), 時間 (1.52), 金 (1.51)

— [Group 2 (9個): 食べ物 (1.29), 森林 (1.28), 人材 (1.28), 飲み物 (1.23), 三万円 (1.21), 電気 (1.11), 能力 (1.04), 情熱 (1.03), チャンス (1.00)

結果の分析

- [グループ 1 に {石油, (お) 金, 時間} が一緒に入っている!!
- [つまり [お金] と [時間] は [石油] と同じぐらい [[資源]] の典型性の高いモノの具体例とみなさなければならない
- [[[TIME IS A RESOURCE]] が概念譬喩なら, [[MONEY IS A RESOURCE]] もそうならないと辻褃があわない
- [これは反直観的にも思えるが, 実際には ...

[[時間]]は本当に直接に概念化不能か?

- [[TIME IS A RESOURCE]] を概念譬喩だと考える根拠がハッキリしない以上、次の疑問が出てくるのは当然
 - [[時間]] の経験は、本当に直接に概念化可能でない経験なのか?
- より一般的には次のような問題につながる
 - 具体的でない経験、抽象的な経験は、本当により具体的な経験を通してしか概念化可能ではないのか?
 - それ以前に、経験の「具体性」とは何が定義するのか?

[時間] の直接知覚の可能性

—— [時間] が直接に概念化可能だという可能性は Lakoff and Johnson が認知意味論に広めた“通説”には反しているが、データの解析結果を見る限り、その可能性は否定されていない

—— “慣性モーメントの知覚” (Turvey 1996) と同じように、[時間] は環境内に存在する不変項の一つとして直接に知覚される可能性もあるのではないか?

—— でもムズカシイ話はいったん保留しましょう

概念譬喩の認定基準

- [概念化 $C: [[x \text{ IS } y]]$ (x, y は概念(領域)) の候補群が与えられ,
- [その中の意味をなす概念化のうちで
- [C が下位クラス化を表わす (i.e., 単に概念 x が上位概念 y の一例である) 場合を除くもの
- [のみが概念譬喩であるとする
- [この基準の利点は「譬喩写像にはよらない自然な概念拡張の可能性」を認めるところ

概念化 C: [x IS y] の認可の三態

- [[1] y による x の正真正銘の下位クラス化 (= カテゴリー化):
概念拡張なし
- [[2] y による x の疑似下位クラス化 (= 疑似カテゴリー化): 概
念拡張あり
- [[3] y による x の正真正銘の概念譬喩写像: 概念拡張あり
- [CMT は事実上, (少なくとも理論的にはありうるはずの) [2]
の可能性を排除している

CMT の説明が循環的になる理由

- [実は概念拡張 (別名“アドホックカテゴリー形成”) がなぜ起こるのかは誰も知らない
- [CMT はそれを概念写像で説明しようとし、
- [勇み足から、明白なメトニミーを除くすべての概念拡張が譬喩写像の産物であると説明することになるが、それは“暗黙の定義”であって、経験的妥当性をもつとは限らない
- [妥当性がない場合、説明は過剰般化を生み、循環論を呈する

定義に身体性をもちださないワケ

— [前掲の譬喩(効果)の認定基準には x, y の具体性/抽象性の基準, つまり“経験の具体性”や“身体性”の基準は(意図的に)もちこんでいない点に注意

— [「先領域の経験の (比較的) 抽象性, 元領域の (相対的) 具体性うんぬん」は, 十分な妥当性をもつ記述が達成された後で行われる“本当の説明”のための議論であって, 過剰般化の可能性が高く, 妥当性もままならない記述の段階でそれをもちだすのは単なる先走り

発表内容のまとめ [1]

— [提案した認定基準の下では

— [[[TIME IS MONEY]] は確かに概念譬喩と見なせる

— [[[TIME IS A RESOURCE]] は (先領域である [[TIME]] が抽象的概念だとしても) 概念譬喩と見なせる証拠は十分ではない

— [これはむしろ下位カテゴリー化であると見なすべき

— [「概念拡張は(概念)譬喩写像を必要としない」という(CMTにとって嬉しくない)可能性も考慮に入れた説明を考えるべき

発表内容のまとめ [2]

— [CMT は,

— [(A) 説明的利害から独立した譬喩効果の認定基準を確立し

— [(B) 過剰般化を回避する合理的な解析手法を開発しないと

— [“何でも説明できる空虚な理論”になり下がる可能性が大である

— [実際, [[TIME IS A RESOURCE]] は明らかに過剰般化で, 空虚な説明の実例

Thank you for Listening

(even if not
LISTENING IS A RESOURCE)

Acknowledgments

— [**Hiroko Hamano, Masayo Ishiyama** (*Song Jan-de*), **Osamu Kitou, Naoki Otani, Yuka Nagata, Akihiro Yamazaki, Daisuke Yokomori, Emiko Iwamoto Hihara**, Kyoto University

— [**Kanamaru Toshiyuki**, Kyoto University/NiCT

— [**Keiko Nakamoto**, Kyoto University

— [**Midori Tanimura**, Kinki University/NiCT

— [**Jae-ho Lee, Koichiro Nakamoto, Mika Shindo, Masao Utiyama**, NiCT

— [**Katsuya Takanashi**, Kyoto University/University of Tokyo

分類語彙表を用いた分類1

— (分類外)

— (動物)

— (人間) 子供 友人 人材

— (組織)

— (生産物) 資源 石油 食べ物 飲み物 金 電気 水道

— (体部)

— (植物)

— (自然) 水道 森林

— (空間)

— (数量) 時間

— (時間) チャンス 時間 暇 金

— (現象) 電気 金 石油

— (関係) 人気 能力 労力

— (活動) 情熱 愛情 努力 忍耐 希望 人気 労働 資格 能力 交際 財産 金 手間

— 交通

— (その他)

— (未定義) ムダ 交友関係 三日 三万円 手間暇 十二 野生動物

分類語彙表を用いた分類2

— (分類外)

— (動物)

— (人間) {われ・なれ…} 子供/ {相手・仲間 } 友人/ {人種・民族 } 人材

— (組織)

— (生産物) {資材} 資源 石油/ {食料} 食べ物 飲み物/ {燈火} 電気/ {地類 (土地…)} 水道

— (自然)

{宇宙・空} 水道 森林

— (数量)

{量} 時間

— (時間)

{位置・地点…} チャンス 時間 暇 金

— (現象)

{自然・物体…} 電気 金 石油

— (関係)

{様相} 人気/ {力} 能力 労力

— (活動)

{心} 情熱 愛情 努力 忍耐 希望/ {言動・言語} 人気/ {文化・歴史…} 労働/

— (その他)

{義務} 資格 能力/ {交わり} 交際/ {取得} 財産 金/ {仕事} 手間 交通

— (未定義)

ムダ 交友関係 三日 三万円 手間暇 十二人 野生動物